THE F-TILE ザ・Pタイル 取扱説明書

●●● sanwacompany
株式会社サンワカンパニー / SANWA COMPANY LTD.
● HEAD OFFICE 541-0041 大阪市中央区北浜2-1-7 TEL 06-6229-1024 FAX 06-6229-1082
● TOKYO 107-0062 東京都港区南青山4-18-16-B1 TEL 03-5775-4763 FAX 03-5775-4764
● OSAKA 541-0042 大阪市中央区今橋2-3-21-3F TEL 06-6229-1034 FAX 06-6229-1310
● NAGOYA 461-0004 名古屋市東区葵1-13-8-1F TEL 052-935-2217 FAX 052-935-2218

製品仕様・施工要領書

1 適用下地

セメント系（モルタル／コンクリート）
耐水ベニア

2 製品構成

コンポジションビニル床タイルKT
寸法：3.0㎜（厚さ）×457.2㎜×457.2㎜
梱包形態：15枚／ケース（約3.13㎡分）　18kg／ケース

3 製品の確認

本品はコンポジションタイルのため、タイル1枚1枚の色柄に濃淡がありますが、自然な風合いを表現しています。

●本品は自然な風合いを表現するため、初期汚れ防止加工をしておりません。施工中、汚れ等が付着しないよう注意し、施工後は養生をし汚れなどの付着を防止してください。また、使用の際は汚れや傷の防止対策のため、ワックスを塗布して下さい（濃色は傷が目立ちやすい傾向がありますのでワックスで表面保護をしてください）。
●梱包箱や梱包紙に記載されている品名、規格、色番号、ロット番号、数量などを確認し、同一床面には同一ロットの材料を用いて施工してください。

4 製品の保管

<床材>
●梱包されたタイル類は重量物です。製品の落下、転倒は、製品の破損だけでなく、人身事故につながる恐れがあります。施工現場での荷捌きや取回し、保管方法は製品の表示、監督者の指示などに従い十分注意し、慎重にお取扱いください。
●納品された床材を作業現場で保管する場合は、雨水や直射日光を避け平坦で風通しの良い湿気のない安定した場所を確保してください。
●タイル類は箱のまま梱包をとかず、積み重ねを7段以内として保管してください。
<危険物の取扱～接着剤・補修材>
●溶剤形などの接着剤(EP20、U10、Uなど該当する有機溶剤を含む製品)、は、消防法上の危険物に当たります。消防法に基づいた運搬をするとともに、保管の指定数量を遵守してください。またこれらに含まれる溶媒は揮発しやすいため、直射日光の当たる場所や自動車内などに長時間放置しないでください。
<非危険物の取扱い～接着剤・補修剤・手入れ剤>
●ラテックス、エマルション形の接着剤（AK）、は水性系のため低温では凍結し、高温（40℃以上）にさらされると変質、分離が起こり使用不能となることがあります。この様な環境に長時間放置しないでください。

5 製品の割付

割付の方法に特別の指示がある場合は、指示のデザインに従う。それ以外の場合は、原則として材料のロスが少なく、周辺部に極端な小さなカット物が入らないように割り付ける。

6 下地の点検・調整

下地の乾燥、強度、平滑度などについてチェックする。点検の結果、著しい不都合がある場合は、下地補修材等で下地の調整を行う。下地の含水率は８％以下にして下さい。また、一般的な用途としては1.5N/㎟程度の表面強度が必要です。コンクリート打設時のレイタンスの発生や雨打たれによる表面強度の低下がある場合は、脆弱な部分を除去してください。

合板、木質下地の場合、根太間隔、通風状態などにより、経日でのたわみ、反り、あばれなどが生じやすいため、下地材突き付け部が線となって仕上げ材表面に現れたり、タイルが割れる可能性があります。これらは木質のため、圧縮強度も高くありません。大きな荷重が掛かる用途では凹みや劣化が生じやすく、用途によっては下地としては不適当な場合があります。住宅などで床下地や壁下地が合板などの場合、木材用防腐剤・防蟻剤によって床材が黄色または褐色に変色するケースが報告されています。

<床の汚染>
貼り出し位置を決める下地への墨出し、インキペンやチョークによる指示などに"染料系色素"の道具を用いるとしばらくたった後その表示などが床材に移り浮き出てくる事故が知られております。墨、インキペン、チョークなどは必ず"顔料系色素"の道具を用いてください。また、下地に塗料、ゴム系接着剤、油脂類などが残っていると染み出してくるという事故も報告されております。十分に除去してから施工の準備を行ってください。
<床材の養生>
床材はあらかじめ室温になじませ、接着を疎外する結露や施工後の伸縮を抑える養生を行ってください。

7 ビニル系床材の汚染対策

●ゴム製品とテープによる汚染：ある種のゴム製品のゴム成分やテープの粘着剤成分により着色汚染が生じることがあります。防止対策として、材質の変更、あて板等を敷き保護してください。
●ヒールマークによる汚染：靴のカカトなどが強い力で床材と擦れあうと、床材にヒールマークと呼ばれる汚れが生じる場合があります。この現象は樹脂ワックスを塗布することにより汚染の軽減が可能です。
●染料による汚染：ビニル系床材と染料を含む物質（マジックインキ、毛染め液等）が接触すると、染料の色素が床材中に入り込み汚染が生じます。染料との接触はお避け下さい。
●ビニル系床材に限らず、一般にプラスチック製品は光や熱の影響などにより、〔畳の日焼けのように〕色味が変わることがあります。適用する部位や配色には十分ご注意ください。

8 接着剤、下地補修材などの留意事項

接着剤、下地補修材および下地表面強化材の用途、用法は製品表示または添付の使用説明書、当カタログの"商品紹介および使用法"などを確認し、関連法規と施工技術を理解された方が施工または立会いを行ってください。

<選定>
接着剤には部屋の用途、床材や下地の種類、工法仕様、施工時の日射や通風、温湿度などに対応するため色々な目的で設計されております。工法仕様や下地の状態を確認の上、本来の性能が発揮される設定を行ってください。
<立会い>
溶剤形接着剤（セメントHM、およびVS、EP20、EP30、U10、U、RV、THなど）は有機溶剤を含有しております。
有機溶剤は引火し易く危険を伴い、また蒸気を多量に摂取すると人体に悪い影響を及ぼす恐れがあります。
使用するときは、有機溶剤作業主任者が立会い、労働安全衛生法、有機溶剤中毒予防規則に従い、火気厳禁、室内換気の下、作業してください。

施工手順

1 下地の点検・調整

下地の乾燥、強度、平滑度などについてチェックする。点検の結果、著しい不都合がある場合は、協議のうえ下地補修材などで下地の調整を行う。

2 材料の搬入・保管

材料を指定の箇所に搬入し、数量、ロットの確認を行う。複数ロットで出荷している場合は、施工箇所ごとに材料の積み分けを行い、混同使用がないようにする。床タイルは癖がつかないよう水平な状態で、また接着剤は接地面温度が５℃以上の状態で保管する。床材はあらかじめ室温になじませ、接着を阻害する結露や施工後の伸縮を抑えるよう養生を行ってください。

3 ケレン・清掃

下地の突起などは、確実にケレン除去し、電気掃除機などで下地面をよく清掃する。

4 割り付け

割付の方法に特別の指示がある場合は、指示のデザインに従う。それ以外の場合は、原則として材料のロスが少なく、周辺部に極端に小さなカット物が入らないように割り付ける。

貼りだし位置を決める下地への隅出し、インキペンやチョークによる指示などに'染料系色素'の道具を用いるとしばらくたった後その表示などが床材に移り浮き出てくる事故が知られております。墨、インキペン、チョークなどは必ず'顔料系色素'の道具を用いてください。また、下地に塗料、ゴム系接着剤、油脂類などが残っていると染み出してくるという事故も報告されております。十分に除去してから施工の準備を行ってください。

5 接着剤の選定

接着剤の選定につき指示がある場合はそれに従い、ない場合は下記の接着剤を使用する。

セメント系 モルタル／コンクリート	一般工法	アクリルエマルションタイプ（セメントAK）
	耐水工法	ウレタン樹脂系溶剤形（セメントU／U10）
		エポキシ樹脂系溶剤形（セメントEP20）
耐水ベニア		ウレタン樹脂系溶剤形（セメントU／U10）

10℃以下の場合は低温時工法（ウレタン樹脂系）を推奨。合板・木質下地は接着剤を塗布しても接着剤の溶媒成分をほとんど吸い込みません。施工直後のふくれ、使用による剥がれといった不具合を減らすため、通常ではエポキシ樹脂系、ウレタン樹脂系など、反応硬化型接着剤を推奨しています。ただし、下地合板目地の発現軽減には、接着剤の塗布量や待ち時間を調整したり、接着強度の弱いアクリル樹脂系接着剤を意図的に用いたりするケースもあります。どれが正解ということではなく'優先させる事項'を建築主と十分に打合せ、工法を決める必要があります。

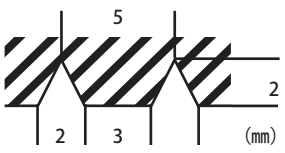
6 接着剤の塗布

接着剤の塗布は、規定のくし目ごてを使用し、作業中くし目がすり減った場合は調整を行う。一回の塗布面積は貼り付け可能時間以内に床タイルを貼り終える面積とし、壁際・柱周りは中央部を貼り終えた後、接着剤を塗布する。

《撹拌》
接着剤、補修材は液状のため比重の高い充填剤などが沈降し、樹脂分が上澄みとなって分離していることがあります。容器を開封後、ヘラなどでよく混ぜてから使用してください。

《混合》
エポキシ樹脂系接着剤(セメントEP20、EP30)は反応硬化形で、主剤(A液)と硬化剤(B液)から成る二液混合形です。それぞれを別々に撹拌後、二液を等容積で別の容器にとり、よく混合してから使用してください。

《塗布》
塗布に用いるクシ目ゴテは、容器に添付されているもの、もしくはJIS規定のクシ目形状のものを使用してください。接着剤は1回で貼り込める面積ごとに区分し、既定のクシ目ゴテで均一に塗布し、粘着を生じる適切なオープンタイム(待ち時間)をとってから床材を貼り始め、貼り付け可能時間内に貼り終えるようにしてください。



7 オープンタイム

オープンタイムは、接着剤・下地の種類、温湿度、通風などにより異なるが、接着剤の皮膜にベタツキが生じる状態を目安にする。

8 貼り付け

基準線に沿わせ目地を通しながら壁際に向かって貼り込む。壁際・柱周りなどの最後の１列を残して貼り込み、これらの部分は最後にまとめて貼り上げる。貼り方向は裏面の「∞PVC」マークもしくは白いラインを目安とし、同一方向に貼り上げる。市松貼りの場合も２方向に貼り上げる。

9 カット

壁際に貼る床タイルを、最後の列の床タイルに正確に重ね、別の床タイルを壁際にあてるなどして採寸を行い、カッターナイフなどで切り込む。厚物の床タイルでは、切り口が盛り上がることがあるので、軽くカンナがけをして修正する。

10 冬期の施工

貼り付け時の室温が、冬期で５℃以下に下がった場合は、ヒーターなどで採暖して、室温を１０℃以上に保ちながら、床タイルを室温になじませたうえ、目地を詰めすぎないように施工する。

11 圧着

平場は45kgローラーなどで、壁際・カット部はハンドローラーなどを使用して、圧着可能時間内に良く圧着する。冬期の施工では、貼り付け時の圧着を入念に行う必要がある。圧着が不十分な場合は接着不良につながり、剥がれ、目違い、突き上げなどの不具合が生じやすくなります。

12 施工後の点検

目違い、浮き、汚れなどの不具合の有無を点検し、不具合がある場合は、処理を行う。

13 仕上げ・清掃

表面仕上げは、接着剤の硬化を見計らい、汚れを水拭きし、乾燥後、必要に応じて床手入れ材（ポリッシュ）を塗布する。

14 養生

施工完了後、関連業者などの土足による床面の汚染、損傷を防ぐため、土足を禁じ、歩行量の多い場所には養生シートなどで養生をしておく。